

2022年6月16日 全9頁

Indicators Update

2022年5月貿易統計

円安・資源高で輸入額が過去最高を更新する一方、輸出数量は小幅増

経済調査部 エコノミスト 岸川 和馬

[要約]

- 2022年5月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+15.8%と15カ月連続で増加し、概ねコンセンサス(同+16.1%)通りの結果となった。ただし、輸出数量(大和総研による季節調整値)は自動車減産などの影響で小幅増にとどまった。輸入金額は円安の急進や資源高を背景に前年比+48.9%となり、水準では過去最高を記録した。これを受け、貿易収支は▲2兆3,847億円(季節調整値では▲1兆9,314億円)となった。
- 5月の輸出数量(大和総研による季節調整値)は前月比+1.7%と2カ月ぶりに増加した。米国向け(同▲4.4%)やEU向け(同▲3.6%)では、自動車輸出の減少が全体を大きく押し下げた。他方、アジア向け(同+7.7%)が増加し全体を押し上げた。中国向け(同▲1.9%)の減少幅が4月から縮小した。
- 先行きの輸出数量は増加基調に転じるとみている。中国経済の正常化が世界経済の追い風となるほか、部品調達難が緩和されて自動車輸出などが持ち直すだろう。とはいえ、中国でのロックダウン(都市封鎖)の再導入やウクライナ危機による資源高、欧米での金融引締めに伴う景気減速といったリスク要因が残っている点には注意が必要だ。

【貿易金額】円安の急進により輸入金額と貿易赤字が膨張

2022年5月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+15.8%と15カ月連続で増加し、概ねコンセンサス(同+16.1%)通りの結果となった(図表1)。季節調整値では前月比+2.4%と3カ月連続で増加した(図表2左)。中国向け輸出金額の減少幅が縮小したことが背景にある。他方、中国でのロックダウン(都市封鎖)による部品調達難や半導体不足などを背景に、日本の主力である自動車輸出は低調であった。税関長公示レートは129.17円/ドル(前年比+18.7%の円安)と円安の急進を示しているが、供給制約などもあって輸出数量(大和総研による季節調整値)は小幅な増加にとどまった。

輸入金額は前年比+48.9%と大幅に増加し、水準で見ると過去最高を記録した。品目別では、高騰している原油及び粗油や石炭、液化天然ガスといったエネルギー品目が押し上げた。輸入金額を季節調整値で見ると、前月比+5.8%と5カ月連続で増加し、こちらも水準は過去最高となった。輸入金額の変動を数量・価格に要因分解すると、輸入価格(大和総研による季節調整値)は同+1.3%と4月から減速した一方、輸入数量(同)は同+4.4%と4カ月ぶりに増加した(図表2右)。まん延防止等重点措置の全面解除以降、内需の回復に伴って輸入数量は持ち直している。

貿易収支は▲2兆3,847億円と10カ月連続の赤字となり、比較可能な1979年1月以降で2番目に大きな赤字幅であった。季節調整値では▲1兆9,314億円となった(図表3)。円安下で企業は輸出数量よりも輸出価格を上昇させて収益を確保する戦略を取っているとみられるが、商品市況高騰を受けた輸入価格の上昇ペースには及ばず貿易赤字が拡大している構図だ。

図表1：貿易統計の概況

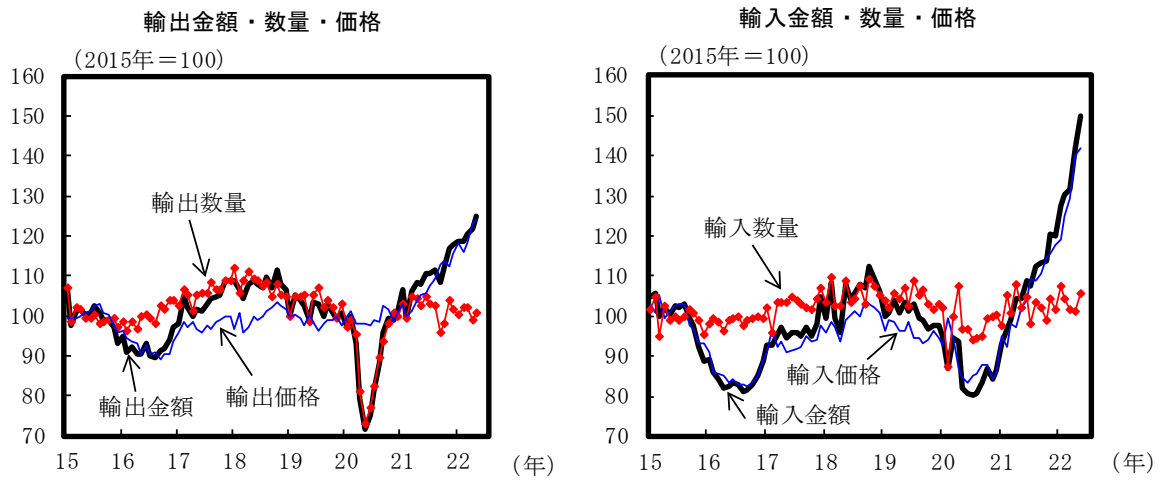
		2021年				2022年				
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
原系列 前年比 %	輸出金額	13.0	9.4	20.5	17.5	9.6	19.1	14.7	12.5	15.8
	コンセンサス									16.1
	DIRエコノミスト予想									16.1
	輸入金額	38.4	26.8	43.8	41.2	38.8	34.2	31.4	28.3	48.9
	輸出数量	3.2	▲2.6	4.7	2.0	▲4.0	2.7	▲1.4	▲4.4	▲3.5
	価格	9.5	12.3	15.1	15.2	14.1	15.9	16.3	17.7	20.0
季節 調整値 前月比 %	輸入数量	7.5	▲3.0	6.1	1.0	4.8	▲0.9	0.0	▲9.0	4.7
	価格	28.8	30.8	35.6	39.8	32.4	35.3	31.4	40.9	42.2
	貿易収支(億円)	▲6,369	▲750	▲9,569	▲5,889	▲21,994	▲6,772	▲4,240	▲8,428	▲23,847
	輸出金額	▲2.9	3.2	4.5	0.7	0.9	▲0.2	1.6	1.3	2.4
	数量	▲6.3	2.4	5.8	▲2.2	▲1.3	1.6	0.0	▲3.0	1.7
	価格	3.5	0.8	▲1.2	3.0	2.2	▲1.8	1.6	4.5	0.6
季節 調整値 前月比 %	輸入金額	0.6	0.3	6.0	▲0.2	6.4	1.8	1.0	8.0	5.8
	数量	▲1.1	▲3.2	5.2	▲2.3	5.4	▲3.0	▲2.4	▲0.5	4.4
	価格	1.7	3.6	0.8	2.1	0.9	5.0	3.5	8.5	1.3
	貿易収支(億円)	▲5,704	▲3,718	▲5,007	▲4,314	▲8,628	▲10,308	▲9,988	▲15,805	▲19,314
	税関長公示レート	109.87	111.42	113.95	113.95	114.82	114.84	115.86	122.84	129.17

(注1) 税関長公示レートは円/ドルレート。コンセンサスはBloomberg。

(注2) 数量と価格の季節調整値は大和総研による。

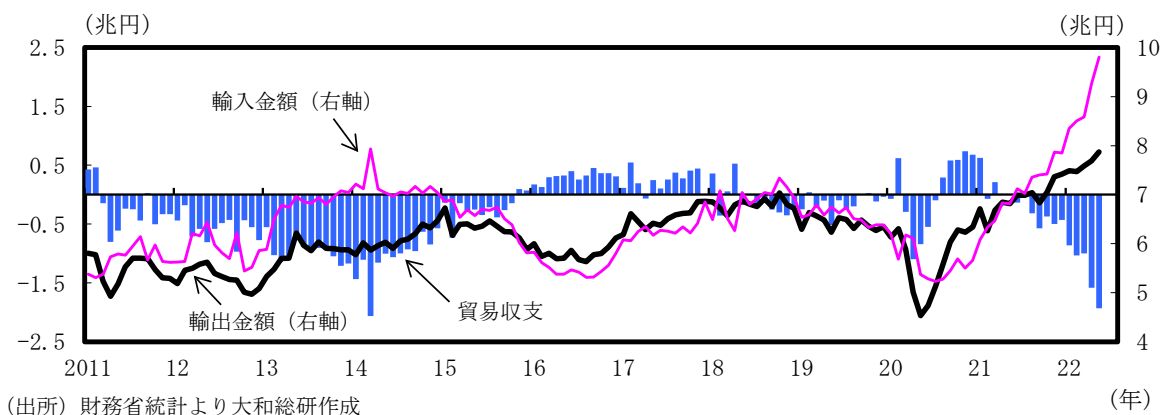
(出所) 財務省、Bloombergより大和総研作成

図表 2：輸出金額・数量・価格、輸入金額・数量・価格（季節調整値）



(注) 輸出数量、輸入数量、輸出価格、輸入価格の季節調整は大和総研。
 (出所) 財務省統計より大和総研作成

図表 3：輸出、輸入、貿易収支（季節調整値）



(出所) 財務省統計より大和総研作成

【輸出数量】円安が追い風となるも部品調達難で自動車輸出が減少

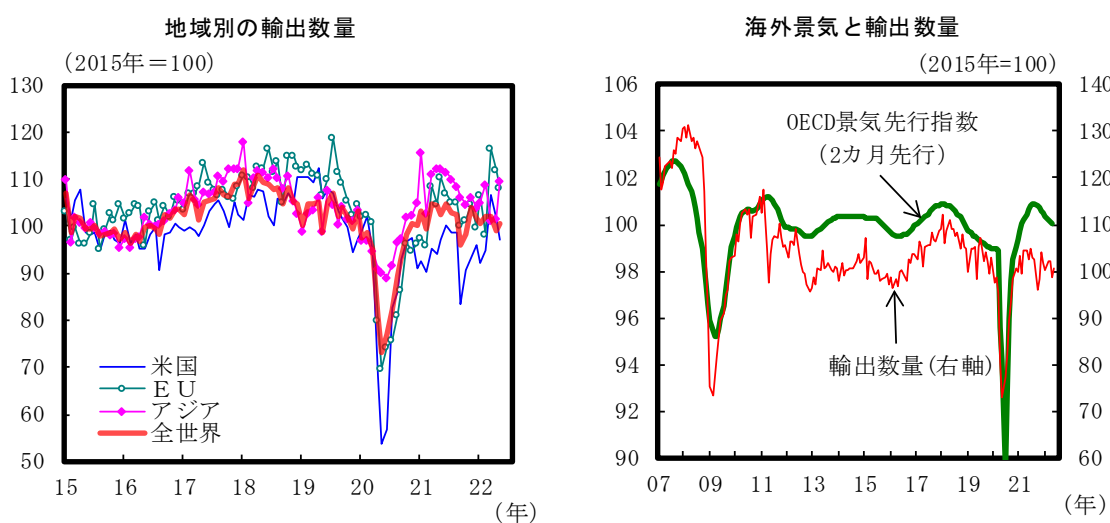
5月の輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比+1.7%と2カ月ぶりに増加した。米国向け（同▲4.4%）やEU向け（同▲3.6%）では、自動車輸出の減少が全体を大きく押し下げた。一方、アジア向け（同+7.7%）が増加して全体を押し上げた。中国向け（同▲1.9%）が3カ月連続で減少したものの、減少幅は4月（同▲10.2%）から大きく縮小した。

米国向けは2カ月連続で減少した。自動車輸出が大幅に減少し全体を押し下げた。水準で見ると、東南アジアでの感染拡大によって減産を余儀なくされた2021年9月～10月と同程度まで切り下げている。中国でのロックダウンによる部品調達難や半導体不足などを背景に、自動車の減産が相次いだことが影響したとみられる。これに関連し、自動車のエンジンなどを含む原動機も減少した。他方、半導体等製造装置が大幅に増加し全体の減少を緩和した。

EU向けは2カ月連続で減少した。米国向け輸出と同様に自動車や原動機が全体を押し下げた。また、このところ急増していた半導体等製造装置や鉄鋼では一服が見られた。ただし、水準で見ればこの2品目は過去最高近辺を維持しており、需要は依然として旺盛である。とりわけ半導体等製造装置については、半導体需要の強さや地政学リスクを意識したサプライチェーンの分散化の動きが追い風となっているようだ。

アジア向けは2カ月連続で増加した。集積回路（IC）や鉄鋼、プラスチック、非鉄金属などの中間財が好調であった。4月以降はアジア全体で見た新型コロナウイルスの新規感染者数が減少していたことから、各国の経済正常化に伴う生産活動の活発化が背景にあるとみられる。他方、自動車輸出はアジア向けにおいても減少した。とりわけ中国向け自動車の減少幅が大きく、ロックダウンによる中国の内需の縮小が影響したとみられる。

図表4：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



（注1）OECD景気先行指数（CLI）はOECD諸国とBRICsなど非加盟6カ国を集計したベース。

（注2）輸出数量の季節調整は大和総研。

（出所）財務省、OECD統計より大和総研作成

【トピック】ロシアからの輸入品を他国から代替調達するコストは？

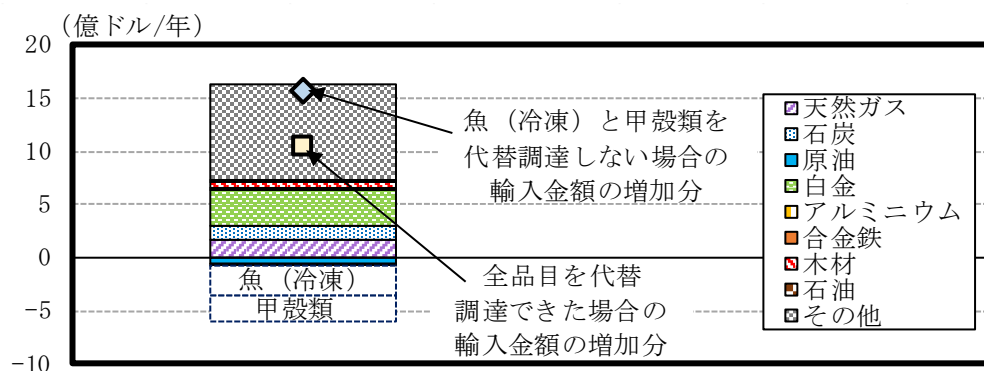
ロシアによるウクライナ侵攻から間もなく4カ月が経過する。ロシアと各国の対立は長期化しており、今後もロシアからの禁輸などの制裁措置が取られる可能性がある。他方、既存のロシアからの輸入ルートは、各企業がサプライチェーンを最適化した結果として築かれたものだ。ロシアからの輸入が途絶するとなれば、代替調達に伴う企業負担の増加は免れないだろう。

仮にロシアからの輸入品を代替調達せざるを得なくなったときのコストについて考えてみよう。日本が他国からの輸入を満遍なく増やしてロシア産品を代替する場合、日本の輸入金額の増加分は、「ロシア産と世界からの輸入品の単価の差×ロシアから調達していた輸入数量」となる。これをロシアからの輸入金額が多い上位100品目について計算したところ¹、代替調達によるコストは10.4億ドル（約1,350億円）に上るとの結果が得られた（**図表5**）。

ただし、内訳の種類が豊富な「魚（冷凍）」や「甲殻類」が試算結果を歪めている可能性には注意が必要だ。これらの品目の他国からの輸入単価は、ロシアからの輸入単価を下回っているため、代替調達によってむしろコストが低下すると試算される。しかし、輸入単価はあくまでも「魚（冷凍）」や「甲殻類」全体の平均単価であり、例えばロシアの主力産品の「タラ」といったように詳細な品目に限定した平均単価ではない。海産物の偏在性に鑑みれば、ロシアから輸入しているものと同じ種類の商品を他国から安く輸入できるとは限らず、他の品目に比べて代替調達できない可能性が高い。

そこで、「魚（冷凍）」と「甲殻類」を代替調達できないと仮定して試算の対象から除外すると、代替調達によるコストは全体で15.6億ドル（約2,000億円）となる。日本の年間の輸入総額（2021年：84.6兆円）に比べれば依然として小さいとはいえ、このコストを負担する一部の業種や事業者には相当に大きな影響を与えるとみられることから、今後注視する必要があるだろう。

図表5：ロシアからの輸入を他国からの輸入で代替した場合の輸入金額の変化



(注) ロシアからの輸入金額が多い上位100品目。輸入金額の増加分は以下の式により算出。

$$(\text{ロシアからの輸入単価} - \text{世界からの平均輸入単価}) \times \text{ロシアからの輸入数量}$$
 (出所) 国際貿易センターより大和総研作成

¹ HSコード4桁（約1,200品目）の分類に準拠し、2021年の貿易データを用いて計算した。上位100品目でロシアからの輸入総額の99.8%を占める。

【見通し】中国経済の正常化は好材料も、欧米の金融引締めが懸念材料

先行きの輸出数量は増加基調に転じるとみている。上海市では6月1日にロックダウン（都市封鎖）が解除された。部品調達難の緩和によって、5月は低調であった自動車輸出が持ち直すと思われる。また、中国がひとまず予定通りに感染拡大を抑え込んだことは、世界経済の正常化を後押しする要因にもなるだろう。とはいえ、ゼロコロナ政策を掲げる中国ではロックダウンが再導入される可能性があり、ウクライナ危機による資源高も継続するなど、リスク要因は残っている。また、欧米では金融引締めに伴う景気減速懸念もある。金利上昇による借入コストの増加で設備投資が鈍れば、日本の資本財輸出には打撃となろう。株価の下落による逆資産効果などを通じて消費財輸出が減少する可能性にも注意が必要だ。

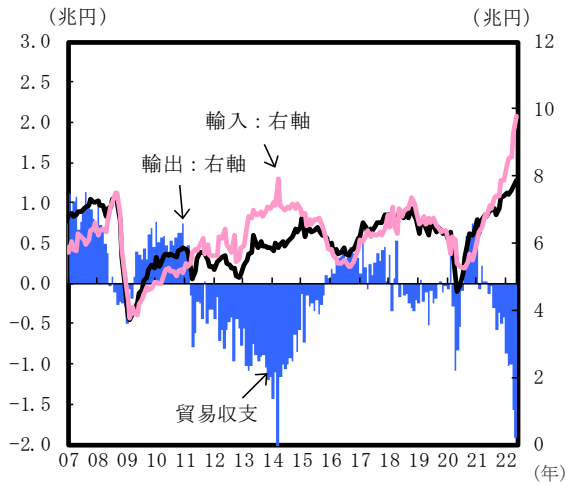
輸出の先行きを地域別に見ると、米国向けは増勢が弱まるとみている。米国経済の柱である個人消費や設備投資は足元でも堅調で、当面は力強い内需が日本からの輸出を下支えするだろう。他方、5月の米国のCPI（総合）は前年比+8.6%と市場予想を上回って加速し、6月のFOMCでは0.75%ptの大幅利上げが決定された。高インフレや利上げがラグを伴って消費や設備投資を抑制することで、米国向け輸出も減速が見込まれる。

欧州向けは足踏みするとみている。ウクライナ危機の長期化を受けて当局などによる経済見通しの下方修正が続いているほか、ECBは7月に0.25%ptの利上げを行う方針を示しており、景気減速が懸念されている。また、このところの対欧輸出数量は半導体等製造装置の好調によって高水準にあったが、資源高や供給制約といったリスク要因が強い中で、企業の積極的な設備投資が続くとは考えにくい。主力の一般機械などでは輸出の伸び悩みが予想されよう。

中国向けは段階的に回復が加速するとみている。中国の5月の輸出は前年比+16.9%（4月：同+3.9%）、工業生産は同+0.7%（4月：同▲2.9%）と、ロックダウン解除前の段階でサプライチェーンが正常化に向かっていたことが示唆された。物流環境が徐々に改善することで、中国での中間財・資本財需要の拡大や、日本での部品調達難の緩和が期待される。他方、中国の5月の輸入は同+4.1%（4月：同0.0%）、小売売上高は同▲6.7%と、内需の回復には時間がかかっていることも示された。このため、中国向けの最終財輸出は遅れて回復するとみられる。

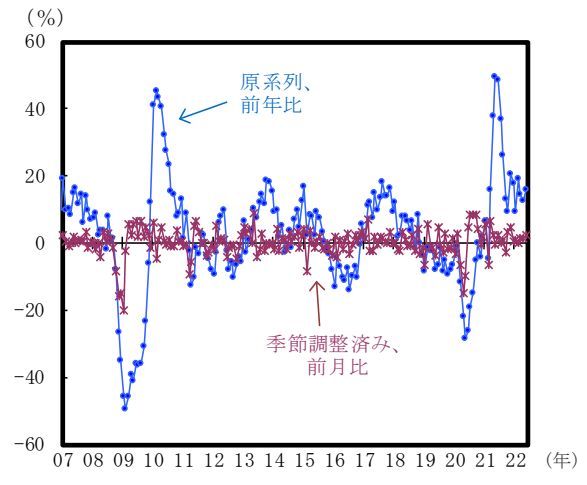
概況

輸出入と貿易収支 (名目、季節調整値)

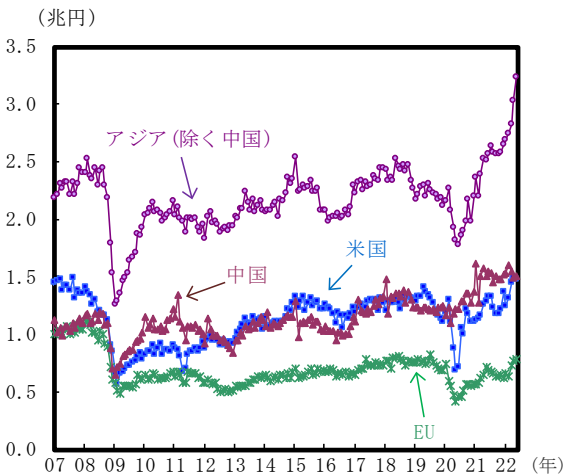


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率 (名目)

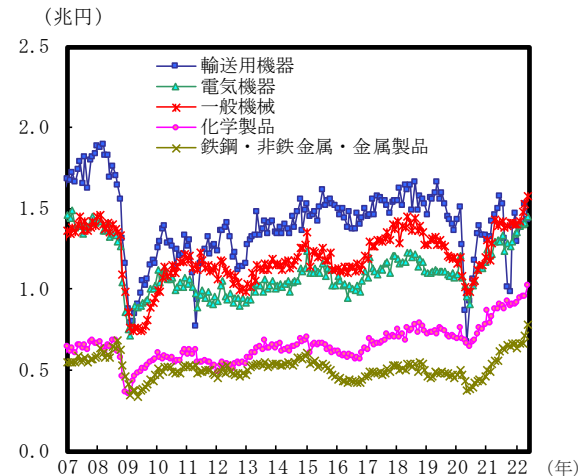


主要地域・国別の輸出額 (名目、季節調整値)

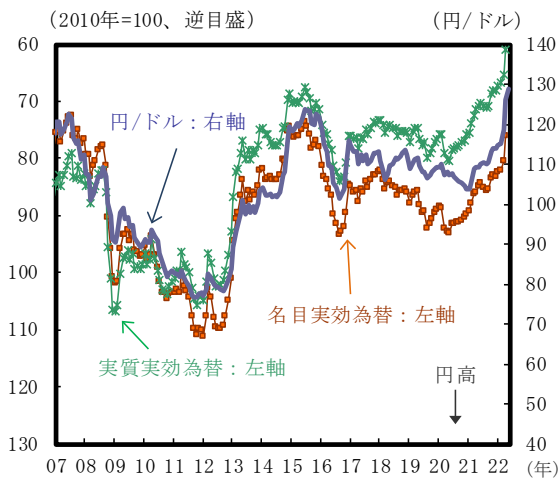


(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

主要商品別の輸出額 (名目、季節調整値)

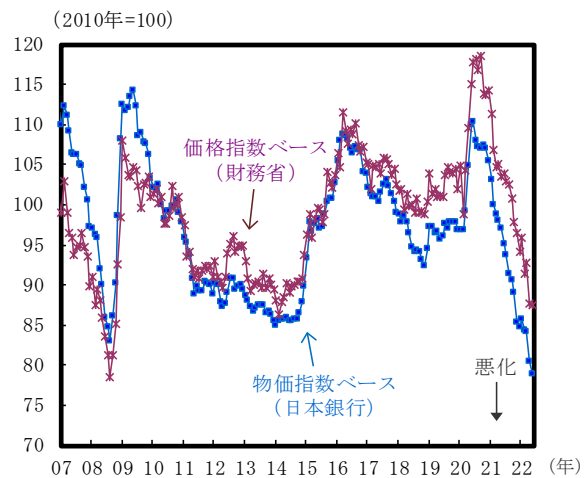


為替相場



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数 (輸出物価指数/輸入物価指数)。
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

交易条件



輸出金額 内訳								
	2021/12	2022/01	2022/02	2022/03	2022/04	2022/05		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	17.5	9.6	19.1	14.7	12.5	15.8	100.0	15.8
食料品	21.3	2.2	18.3	6.3	14.0	18.3	1.2	0.2
原料品	12.1	▲0.6	13.6	5.2	4.0	20.9	2.1	0.4
鉱物性燃料	84.2	111.2	139.3	90.5	132.0	404.8	2.7	2.5
化学製品	15.6	5.8	19.8	15.7	8.5	15.5	13.0	2.0
原料別製品	35.5	20.0	31.1	21.4	24.3	35.0	14.1	4.3
鉄鋼	75.1	47.0	45.5	38.8	37.1	60.2	6.2	2.7
非鉄金属	26.1	18.0	32.5	8.5	26.5	30.4	2.9	0.8
金属製品	6.0	▲8.3	13.7	8.7	7.9	4.4	1.4	0.1
一般機械	17.6	7.1	19.7	15.8	6.6	13.3	19.2	2.6
電気機器	15.0	8.4	16.0	15.6	8.7	11.1	17.6	2.0
半導体等電子部品	25.9	14.0	21.4	16.0	9.6	21.1	6.1	1.2
I C	26.9	15.0	23.4	16.4	8.7	25.8	4.3	1.0
映像機器	▲8.4	91.7	77.4	85.4	69.0			
映像記録・再生機器	▲8.1	8.9	1.3	▲0.9	▲3.7	▲0.5	0.3	▲0.0
音響・映像機器の部分品	2.9	▲9.3	8.7	13.0	▲21.6	7.7	0.2	0.0
電気回路等の機器	10.1	1.4	11.8	10.5	7.9	4.3	2.3	0.1
輸送用機器	10.2	▲0.5	4.3	▲1.2	4.9	▲5.3	15.5	▲1.0
自動車	17.6	▲1.0	8.3	▲5.2	4.8	▲7.9	9.6	▲0.9
自動車の部分品	▲0.3	3.6	3.2	11.8	2.9	0.5	3.9	0.0
その他	16.6	18.2	27.8	27.1	25.7	19.5	14.5	2.7
科学光学機器	14.1	▲2.4	6.2	0.5	5.7	▲2.4	2.4	▲0.1

米国向け輸出金額 内訳								
	2021/12	2022/01	2022/02	2022/03	2022/04	2022/05		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	22.1	11.5	16.0	23.8	17.5	13.6	100.0	13.6
食料品	48.8	19.7	27.1	63.2	39.1	31.6	1.2	0.3
原料品	21.9	▲16.2	▲39.3	3.4	18.3	77.3	1.5	0.8
鉱物性燃料	100.4	559.9	2709.1	1007.5	228.7	1455.2	2.7	2.9
化学製品	13.5	25.4	12.0	67.1	20.5	49.3	10.1	3.8
原料別製品	36.0	8.8	18.8	39.9	43.3	37.5	8.5	2.6
鉄鋼	121.6	38.1	19.1	91.8	87.0	24.4	1.8	0.4
非鉄金属	74.2	45.6	47.9	21.8	57.3	78.3	1.4	0.7
金属製品	▲1.2	▲24.8	6.6	22.9	12.4	6.7	1.6	0.1
一般機械	35.0	29.2	27.1	37.2	23.3	26.1	27.5	6.5
電気機器	26.8	12.3	10.9	25.9	8.7	1.2	14.2	0.2
半導体等電子部品	24.9	17.5	31.2	3.4	19.0	12.5	1.6	0.2
I C	12.9	14.9	42.5	▲4.6	10.9	25.8	0.8	0.2
映像機器	0.6	19.1	15.9	23.6	▲11.3			
映像記録・再生機器	▲5.8	16.1	▲0.7	21.9	▲14.0	▲19.0	0.5	▲0.1
音響・映像機器の部分品	10.1	▲32.2	8.3	31.4	▲62.2	▲1.7	0.1	▲0.0
電気回路等の機器	13.4	▲2.8	▲7.0	2.1	4.0	▲3.1	1.5	▲0.1
輸送用機器	10.4	▲2.3	10.1	▲5.4	9.3	▲13.8	22.7	▲4.1
自動車	11.9	▲0.2	16.2	▲16.7	10.9	▲15.6	15.8	▲3.3
自動車の部分品	12.1	▲1.2	▲1.4	41.7	5.7	1.0	5.7	0.1
その他	25.7	9.9	14.0	40.5	17.6	5.4	11.7	0.7
科学光学機器	35.9	19.3	16.1	20.3	31.6	16.9	2.7	0.4

EU向け輸出金額 内訳								
	2021/12	2022/01	2022/02	2022/03	2022/04	2022/05		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	9.7	16.1	8.8	16.8	19.2	10.6	100.0	10.6
食料品	41.8	49.9	4.8	46.2	32.0	18.2	0.6	0.1
原料品	11.7	31.5	28.6	22.1	24.4	5.0	1.0	0.1
鉱物性燃料	13.3	0.2	32.7	170.2	344.9	229.6	0.6	0.4
化学製品	9.0	11.5	6.1	23.8	15.1	7.2	13.3	1.0
原料別製品	24.5	43.9	39.6	34.1	44.6	61.6	11.0	4.6
鉄鋼	162.1	203.8	176.9	66.5	188.9	196.3	5.0	3.7
非鉄金属	18.6	93.2	9.0	17.2	23.4	37.2	0.9	0.3
金属製品	▲11.5	▲15.5	3.8	14.4	10.4	2.8	1.4	0.0
一般機械	9.2	16.6	21.7	31.7	33.8	18.4	24.9	4.3
電気機器	▲5.6	11.8	2.8	6.2	7.5	4.8	17.6	0.9
半導体等電子部品	15.4	15.0	14.1	14.5	15.2	20.3	2.4	0.4
I C	14.4	10.1	31.4	21.8	12.8	33.2	1.1	0.3
映像機器	▲33.9	11.5	12.4	▲6.0	11.1			
映像記録・再生機器	▲33.3	1.5	9.3	▲24.3	▲12.1	40.5	0.8	0.3
音響・映像機器の部分品	11.2	7.4	▲10.1	11.5	▲21.8	▲6.6	0.2	▲0.0
電気回路等の機器	3.3	16.7	23.2	15.3	11.2	8.9	1.8	0.2
輸送用機器	12.7	▲6.5	▲17.5	▲1.0	▲1.2	▲10.1	17.0	▲2.1
自動車	50.0	▲12.4	▲24.0	▲19.0	▲0.9	▲7.0	8.7	▲0.7
自動車の部分品	▲39.4	▲9.4	▲13.1	▲3.0	▲4.5	1.9	5.2	0.1
その他	19.5	49.8	28.4	19.9	31.0	9.5	14.0	1.3
科学光学機器	9.2	40.3	25.7	36.9	43.5	21.3	4.5	0.9

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

アジア向け輸出金額 内訳								
	2021/12	2022/01	2022/02	2022/03	2022/04	2022/05		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	16.6	6.3	25.2	12.4	10.3	17.5	100.0	17.5
食料品	14.9	▲4.6	17.7	▲4.5	10.1	17.7	1.4	0.3
原料品	10.9	▲0.6	19.9	3.8	1.7	16.7	2.8	0.5
鉱物性燃料	27.8	49.9	89.8	64.4	86.3	224.0	2.4	2.0
化学製品	14.3	0.6	23.7	9.3	4.4	11.9	15.6	1.9
原料別製品	35.9	17.5	34.8	16.3	21.5	34.9	16.8	5.1
鉄鋼	72.2	39.2	45.8	34.3	28.2	59.6	7.6	3.3
非鉄金属	24.8	15.8	37.8	2.7	28.3	31.0	4.3	1.2
金属製品	11.2	▲3.4	17.6	5.1	6.2	3.4	1.5	0.1
一般機械	12.9	▲4.7	18.1	6.4	▲4.8	5.1	16.7	1.0
電気機器	16.0	7.2	19.8	15.7	9.9	14.3	21.3	3.1
半導体等電子部品	26.0	13.7	21.2	16.5	8.5	21.4	9.3	1.9
I C	27.6	15.1	22.6	16.9	8.1	25.7	6.8	1.6
映像機器	4.3	224.1	219.6	221.2	235.8			
映像記録・再生機器	10.0	8.1	1.2	0.1	10.8	▲1.4	0.2	▲0.0
音響・映像機器の部分品	▲7.8	▲12.5	0.6	▲3.0	▲16.7	▲1.4	0.3	▲0.0
電気回路等の機器	10.6	1.0	13.4	10.5	9.8	4.9	2.9	0.2
輸送用機器	5.3	1.4	17.7	1.3	7.5	▲6.7	6.3	▲0.5
自動車	17.3	▲5.0	13.7	0.8	▲5.2	▲14.1	3.0	▲0.6
自動車の部分品	6.3	9.7	11.7	7.6	14.3	3.4	2.7	0.1
その他	15.8	14.6	34.9	19.9	25.3	27.7	16.5	4.2
科学光学機器	10.8	▲15.9	▲0.6	▲12.5	▲8.4	▲12.9	2.4	▲0.4

中国向け輸出金額 内訳								
	2021/12	2022/01	2022/02	2022/03	2022/04	2022/05		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	10.8	▲5.4	25.8	2.9	▲5.9	▲0.2	100.0	▲0.2
食料品	16.2	3.6	42.5	20.9	24.1	28.7	1.4	0.3
原料品	4.3	7.1	67.9	▲5.1	▲4.2	16.5	2.8	0.4
鉱物性燃料	25.4	▲51.4	▲25.1	2.2	100.2	23.8	0.6	0.1
化学製品	15.1	▲9.5	40.9	4.3	▲1.1	10.1	19.0	1.7
原料別製品	23.1	▲3.0	39.0	4.3	4.7	19.0	14.4	2.3
鉄鋼	48.8	3.8	58.7	26.1	▲0.3	21.0	4.3	0.7
非鉄金属	22.9	▲2.6	30.6	▲19.4	12.3	24.1	4.7	0.9
金属製品	10.0	▲5.6	16.6	4.3	▲1.7	5.7	1.8	0.1
一般機械	5.6	▲11.1	20.2	▲4.6	▲25.7	▲10.4	21.2	▲2.5
電気機器	17.0	7.0	27.4	16.7	7.9	3.5	21.6	0.7
半導体等電子部品	28.7	18.0	24.4	10.5	▲1.0	4.1	6.9	0.3
I C	32.3	24.1	27.0	5.1	▲4.6	2.4	4.6	0.1
映像機器	▲4.8	269.7	320.2	301.9	301.9			
映像記録・再生機器	2.3	▲0.9	▲16.3	▲12.8	▲14.4	▲11.9	0.4	▲0.0
音響・映像機器の部分品	▲22.3	▲29.6	▲6.6	▲11.5	▲28.7	▲37.1	0.3	▲0.2
電気回路等の機器	13.0	▲1.0	24.5	15.0	11.0	▲4.4	3.3	▲0.1
輸送用機器	14.9	▲3.5	6.6	▲7.0	▲10.0	▲26.3	6.8	▲2.4
自動車	30.6	▲9.0	7.8	▲8.4	▲12.2	▲36.3	3.2	▲1.8
自動車の部分品	▲4.6	6.8	3.1	▲5.5	▲4.4	▲12.4	3.4	▲0.5
その他	▲6.0	▲12.8	13.3	0.4	▲8.4	▲7.2	12.2	▲0.9
科学光学機器	0.0	▲25.5	▲1.1	▲15.4	▲22.3	▲22.9	3.1	▲0.9

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成